

CFFマレーシアの水

吉野輝雄（CFF日本理事）

Q1 飲み水はどこから得ていますか？

A： 始めの頃は、市販の10リットル飲み水タンクを買っていました。今は、公共水道水を浄化フィルターを通して使用しています。公共水道は1012年7月から給水され、毎月約5,000円分使用しています)

なお、キャンプ期間中は飲み水が多量に必要となるので10リットルタンク（一つ300円）を使用しています（一回のキャンプで約30個）。

Q2 生活水（炊事、シャワー、洗濯、洗浄）はどこから得ていますか？

A： 湧き水（ジャングルの奥／バンブーハウスから700m奥地）から引いた自然水を浄化フィルターを通して使っています。

しかし、雨がしばらく降らなかったり、キャンプ中は公共水道を使うこともあります。

Q3 雨水を利用していますか？

A： 以前は雨水タンクに貯めていましたが、現在は貯めていません。

しかし、今年建設予定のメインハウスには雨水利用のため雨水タンクを設置する予定です。

Q4 養魚池の水はどこから得ていますか？

A： 池の水は掘った土地が湿地帯なのでか自然に湧いてきます。年中涸れることがあります。稚魚や出荷前のコンクリート養魚池には、A2で述べた自然水を引いています。

2013年2月より、コンクリート養魚池専用川の水も自動水揚げポンプで引けるようになりました。水質を保ち水の循環をよくするため、一日3回 4.8トン×3回（約15トン）くみ上げています）。

Q5 養魚池、養殖槽はどこに排水しているのですか？

A： オーバーフローした水は自然に戻しています。緩やかな斜面を流れる間に地下に沈んで行きます。

Q6 水質検査をしていますか？

A： 定期的にしてます（理事の佐藤さんに依頼してます）。今は、水道水、湧水、浄化フィルターを通した水を検査してます。安全基準を満たしています。なお、水道水は硬水です。

Q7 雨期、乾期はいつですか？

A： 雨期は11-2月、乾期は4-7月です。

因みに、2010年春に川の水が涸れたことがありました。

Q8 サステイナブルデザインを支える魚の養殖には大量の水が必要かと思うのですが、十分賅える見通しがあるのですか？

A： 確かにジャングルの湧水では足りません。実は今、川の水をポンプで汲み上げ養殖水槽に導く計画を考えています（A4で述べたように一部実施しています）。必要量が増した場合には、川の流れを利用する自家発電装置によってポンプの水揚げ量を増やします。

川の水量は季節によって変動しますが、涸れることはありませんので、これで必要な水は賅える見通しです。

●まとめ：

「命の水」と言われる水はCFFマレーシアにおいても無くてはならないものであることが理解できます。そこに生活する子どもたち、スタッフ、そして、毎年訪れる多くのキャンパーたちの飲み水、生活水だけでなく、魚の養殖池には大量の水が必要ですが、湧水の発見、公共水道の設置、川から引く水、さらに雨水も利用することで生きた「子どもの家」が運営できる見通しが立って来たことは有り難いことです。

敷地内の果樹が育ち、瑞々しい果物も食べられるのは、木の根から吸い上げられ、自然ろ過された水が果物として貯えられると思うと、自然の恵みは水を通して与えられることが多いことが理解でき、自然の不思議さ（ワンダー）に支えられている幸いを感じます。